

令和元年東日本台風災害から1年、学校だより10月号に記載の通り、本校敷地内に千曲市の「防災備蓄倉庫」が設置されました。ハザード・マップ上では佐野川の浸水域にも入るため、設置に当たっては30cm程の基礎部分のかさ上げがなされています。

今年も台風の襲来の度に、その勢力や進路など危機管理の視点から細心の注意を払ってきました。「災害は忘れたところにやってくる」というよりも「災害は忘れる間もなくやってくるという」時代になってしまったような感じすらします。

地域災害史について、昨年、避難所開設を報告した学校運営員会で会議資料として提示した資料について、千曲市川西地区振興連絡協議会に長らく関わって来られた、語り部の会代表荒井初男様より、一点の疑義が寄せられました。

年表資料の一行目の年号を含む「888年 仁和3年 山崩壊 山河溢れ 千曲川流域の六郡の城漂流」の記事についてです。

私自身が川西地区振興連絡協議会主催の講演会等に参加して、仁和の洪水についての最新の知見に触れる機会にも恵まれ、歴史に登場する巨大災害について、学校保管資料に基づいて考えたり、私的に日常の犬の散歩経路の中でフィールド・ワーク的に思いを巡らすこともありましたので、今回、より最新の地学論文等の知見と自らの足で高低差を感じながら地域を歩いた私感や、地質資料考察を織り交ぜて、誤りについてお詫びと訂正を加えておきたいと思えます。

- ・西暦、ユリウス暦と和暦の混乱
- ・災害事象の複合性と現象発生の時間差

この2点が、ご指摘を受けた事象の不整合点です。解明された歴史事実や最新研究との相違が含まれています。地震学を専門とする神戸大学名誉教授、石橋克彦氏らの研究成果を基にした最新の仮説では

- ・仁和3年 西暦887年8月22日に東海・東南海の連動地震(あるいは南海地震)により、八ヶ岳天狗岳山体が崩壊した。
- ・崩壊により山域の河川と千曲川がせき止められ、現南牧村や小海町に天然ダム湖が形成された。
- ・仁和4年 西暦888年6月20日に前年形成の天然ダム湖が決壊した。
- ・決壊により千曲川下流域に甚大な洪水・土石流災害がもたらされた。

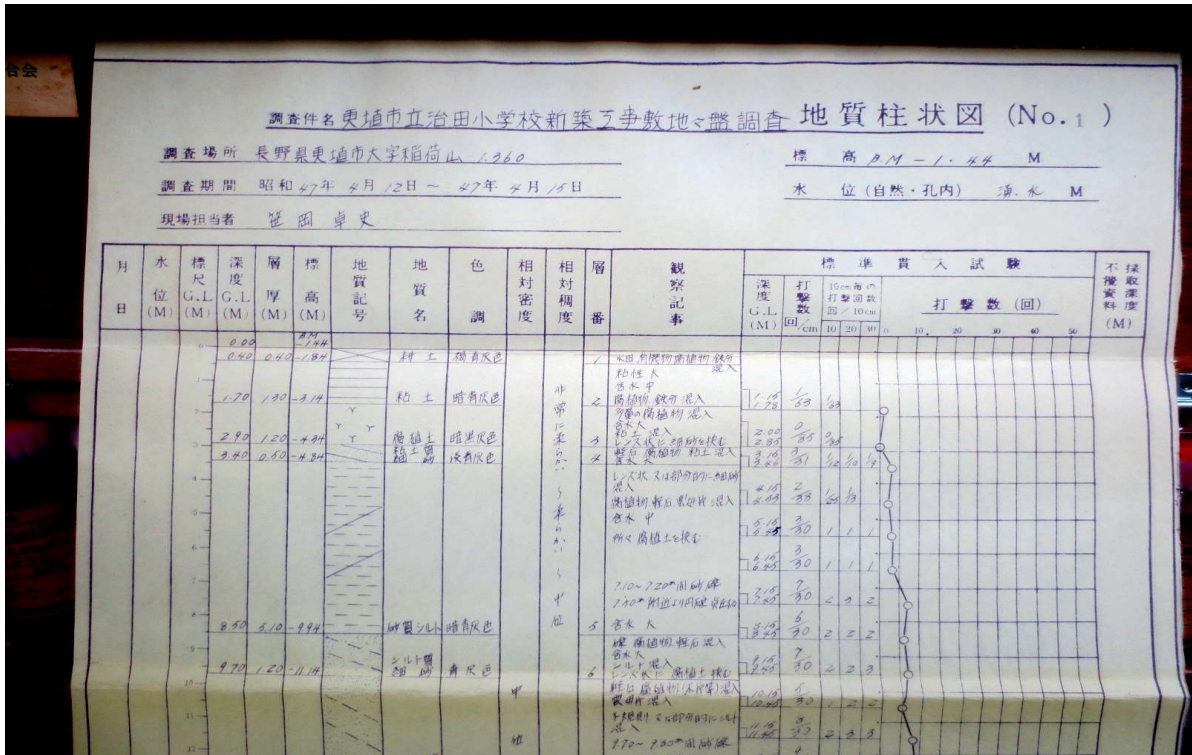
この洪水災害の規模は想像を絶するもので、当時の国府や郡衙等の現官公庁に当たる行政機関も被災流失しているものと考えられます。そのことが「千曲川流域の六郡の城漂流」というような記載になっていると考えられます。現南牧村にある「海ノ口」「海尻」や小海町の「海」は、形成された天然ダム湖の存在を留めた地名と考えてもよいのではないかと思います。かなりの水量が蓄えられ、それが一機に決壊したとすると、莫大な破壊力を持った土石流が当時の下流域に暮らす人々を襲ったと想像されます。数十キロも下流の当千曲市でも、条理遺跡の発掘研究成果が各遺跡単位の研究紀要として発表されています。2メートルもの厚さを持った「平安砂層」が確認されたりしています。運ばれた土砂等からその破壊エネルギーなどが河川工学的な研究により究明されることを期待しています。

本校は千曲川左岸に位置し、国土地理院地図で370mの等高線が玄関付近を通っています。千曲川河床より10mほど高い佐野川扇状地中域にあります。同じ左岸で河床から30mの高さがある標高約400mの西山縁に集落を形成している「郡」地籍は、大災害の前後に、更級郡の「郡衙」があった可能性すら想像させる地名です。北西方面に流れていた千曲川は現在の千曲市八幡で北東方面にほぼ直角に流路を変えますが、北西方面に直進してきた平安期の土石流の堆積物がどれほどの勢いと量で左岸(ふるさと治田エリア)を直撃したかは、未だに解明されておりません。

約50年前、本校の建設に当たり地盤を調査した際の「土質標本」が3孔分、校長室に保管されています。昭和47年(1972年)4月12日から4月22日にかけて、校舎建設予定地の三か所を深さ27mまで掘り

下げてサンプルが採取されています。

写真 1



1号孔の標本を見ますと地下3mまでが「耕土」「粘土」「腐植土」で形成されています。2m90cmから3m40cmに50cmほどの「粘土質細砂」が挟まり、そこから8m50cmまで約5mもの「砂質シルト」層が確認されます。「更埴市立治田小学校新築工事敷地地盤調査地質柱状図」(写真1)に記載されたシルト層の観察記事欄には、「レンズ状、または部分的に細砂混入。腐植物、軽石、雲母片混入、含む水、中。所々腐植土を挟む」との記載があります。佐野川の土石流が形成した層と考えられる層の厚さとは桁が違う厚さをもつことから、この層こそが平安時代前期、仁和年間に「ふるさと治田」を襲った土石流層ではないかと私は考えています。子どもたちのなかに、このことを明らかにしてくれる研究者が現れるかもしれません。学び続けたいものです。

- 参考:
- ・屋代遺跡群 地之目遺跡(埋蔵文化財発掘調査報告書) 平成 24 年 千曲市教育委員会
 - ・文献史料からみた東海・南海巨大地震 1999 年 石橋克彦